



# 鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第85号

2017年1月7日

## 地球温暖化対策「パリ協定」発効に想う

NPO法人社叢学会理事長・京都大学名誉教授

藺田 稔

本誌の昨年正月号の巻頭言に「COP21パリ協定に希望を託して」という年頭所感を載せましたが、今回は一昨年12月国連の気候変動枠組み条約締約国会議で採択された協定が、その後10ヵ月ほどで各国の批准が進み、昨年11月4日には発効の運びとなりました。

残念ながら、日本政府の批准手続きは、昨年末の臨時国会でようやく11月8日に可決となり、同月7日からのモロッコ・マラケシュでの第一回締約国会議には正式参加できませんでしたが、ともかくも京都議定書での対策を引き継ぐ2020年からのパリ協定には我が国も積極的に参画しなければなりません。

パリ協定は、今世紀後半に世界の温室効果ガス排出を「実質ゼロ」にし、世界の気温上昇を産業革命前から2度未満に抑える目標を掲げています。各国は自主目標を設定してガス削減に取り組み、目標達成は義務でないものの、相互に検証する仕組みを作り、5年目ごとに目標をも見直すことになっていますが、現在の削減目標を各国が達成しても、気温は2.9から3.4度上昇してしまうとも試算されるので、いずれ目標をさらに上乘せすることになりそうです。いずれにせよ、省エネなどで大幅にCO<sub>2</sub>の排出量を減らし大規模な植林で吸収させることが必要となるでしょう。

ところが世界の現状は深刻で、昨年4月の新聞報道では、日本の宇宙航空研究開発機構(JAXA)が打ち上げた陸域観測技術衛星「だいち2号」が撮

影した世界の森林面積、とりわけCO<sub>2</sub>を大量に吸収する各地の熱帯雨林が急速に減少している実態を明らかにしています。初代の「だいち1号」が撮影した2010年に比べ、2015年には東南アジアのボルネオ島で8%以上、アフリカのタンザニアで約5%、南米エクアドルで約3%減っているとのこと。その主な原因には伐採や焼却とみられています。こうした森林破壊を差し止めることさえ容易ではありません。

さて翻って、わが社叢学会は何ができるのか。「パリ協定」発効に賛同して2020年を待つまでもなく、今から15年前の2002年に発会して活動してきた当学会の設立趣意は、社叢文化、すなわち古来日本人が豊かな森林と共生してきた伝統文化を学際的・多角的に調査研究しつつ、その成果を広く一般に紹介啓発して人々の生活環境に緑を回復し、さらには地球環境の悪化に対しても文明的発信としての環境学的指針を提示したい、というものです。

「近い森、遠い林」という警句を、かつて30年前のある環境会議に一人の森林生態学者の発言で教えられたことがあります。当時の日本人が抱いていた森林に対する遠近感を指したことばで、多くの人が住まいから遠く奥地にある原生林や天然林の大切さをしきりに論じながら、住まい近くの社叢や人工林の保全育成にはほとんど意を介さないという皮肉な当時の市民感覚でしたが、果たして今はどの程度改められたのでしょうか。

社叢インストラクター資格認定試験

3/4(土)に太宰府天満宮で 出願締切りは2/20(月)

出願用紙はホームページ(<http://www.shasou.org/inst/gan.pdf>)に



## 【報告】伏見稲荷大社社叢における イチイガシ林復活の試み

講師：菅沼 孝之（社叢学会顧問・奈良女子大学元教授）  
糸谷 正俊（社叢学会副理事長・㈱総合計画機構相談役）

前号でも紹介したが、社叢学会では伏見稲荷大社でイチイガシ林復活に向けた植栽実験を継続している。今回はこれまでの経過と現況について報告した後、実際に現地を見学した。

**社叢管理実験開始** 社叢学会では2008年から3ヶ年にわたって地球環境基金から「社叢管理技術の確立」を目的とした助成金を得た。伏見稲荷大社ではカシノナガキクイムシによる甚大な被害を受け、被害木の伐採が進んでいた。そこで社叢学会では、社叢らしい雰囲気を持ち、地域の植生に即した樹種を植栽し、社叢の復活を図ることが必要であるという考えのもと、伏見稲荷大社社叢に管理実験区を設置させて頂き、毎木調査等による現況把握に取り組んだ。

**イチイガシの植え付け** 管理実験2年目の09年4月、前年に種子を採取したイチイガシ、ツバキ、サカキをプランターに蒔き付け、11月に発芽したイチイガシの幼樹8本を実験区に植え付けた。その後、生育の経過観察を続けながら、林床のササを除去するなどの管理作業を継続したが、3年間の助成期間の終了と共に、組織だった管理作業ができなくなり、社叢インストラクターのフォローアップ研修等の機会をとらえて、また有志が個人的に管理作業を実施するにとどまっていた。

**管理事業の再開** 2014年になって、手がけた実験区を放置するわけにはいかないとの考えのもと、7月に社叢インストラクターフォローアップ講座を開催、現地調査を実施した。その結果、ササなどが繁茂する林床を放置すれば、やがては植栽したイチイガシも消滅してしまいかねない状況にあることが確認された。そこで、伏見稲荷大社社叢でのイチイガシ林復活に向けた事業に取り組むべく、夏原グラント助成金を申請、この事業に取り組んでいくこととした。

平成28年度の助成が決定し、6月にイチイガシ幼樹の位置確認と育成状況の調査、周辺の除草、枝切りによる日照確保などの作業を行った。位置確認については、08年の調査をもとに、中央部のアベマキ、コナラ、ヒノキを基点に位置を確定、配置図を作成した。

**イチイガシの歴史的根拠** 稲荷山に残存しているイチイガシは全部で9本を数えるが、いずれも溪流の縁で、標高80～120mの低地である。伏見盆地で農耕が営まれた縄文後期から弥生前期には低山地から供給されたイチイガシなどで農耕器具を作り、耕作していたものと思われる。というのもイチイガシは遷移の初期に出てくる樹種で生育が遅いため、材質は非常に硬く丈夫で、建材には向かないが、農耕器具や運搬用具として利用されていたと考えられるからだ。826年に空海が東寺五重塔建立のために稲荷山からヒノキの大木を運び出しているが、この時も運搬具はイチイガシで作られたと考えられる。

稲荷山は応仁・文明の乱で全山がほぼ焼失、その後に現れたアカマツ林も遷移によって姿を消し、クスノキやシイノキ、クヌギなどが育成する現在のよう森になっている。しかし稲荷神社創建当初には、そびえたつヒノキやイチイガシ、シラカシ、ケヤキ、ムクノキの巨樹が人々に畏敬の念を起こさせていたと思われ、実験区に現生する大木にイチイガシ・シラカシなどを加えた「太古の森」を復活させるのは大いに意義のあることだと考えている。

イチイガシのこれまでの生育状況まとめ(高さm)

記号	10/12/06	14/4/22	16/6/13	16/9/12	生育状況
A		0.42	0.44	0.45	やや不良
B	0.15	0.42	0.70	0.68	良好
C	0.12	0.15	0.30	0.25	やや不良
D	0.24	1.20	1.80	1.80	良好
E	0.15	0.90	1.50	1.60	良好
F	0.15	0.30	0.45	0.50	良好
G	0.13	0.30	0.35	0.40	やや不良
H1		2.03	0.20	0.20	不良
H2			0.20	0.25	不良

平成29年度 年次総会は 6/17(土)・18(日) に  
大神神社(桜井市)で

三輪山登拝や古墳群見学など原初の祈りを体感する2日間



## 河川改修と鎮守の森保全のかかわりから学ぶこと

講師：北畠 能房（小松天満宮宮司 京都大学名誉教授）

石川県小松市に鎮座する小松天満宮は、梯川の畔りにあり、菅原道真公や前田利常公を祀る由緒のある神社で、神門と社殿は国重要文化財に指定されている。

河川法の改正により神社境内地の移転問題が浮上した。公共事業と鎮守の森のかかわりにおける一つの事例として、これまでの経緯について北畠宮司にお話いただいた。

最初に河川改修による移転の話が持ち上がったのは昭和56年のことである。すでに国重要文化財指定を受けていたため、文化庁の許可が下りず、計画は難航していた。有識者からのアドバイスでは、①移転以外の代替案があるか ②ここでなければならぬ立地の固有性があるか、の2点がキーポイントになるということであった。当時の市長は、移転を前提とせず、徹底的に調査をしてから判断するということになり、専門調査委員会を立ち上げ、各分野の専門家に調査を依頼した。

ボーリング調査の結果では、境内地が人為的に盛土されている事が判明し、費用をかけてこの地に創建されていることがわかった。地理的には金沢城本丸と小松城本丸を結ぶ鬼門線上に小松天満宮があることがわかり、大きな発見となった。これまでに文化財が移転した記録を確認してみると、ゆかりの地等以外に移転するのは難しいことがわかった。神社本庁からも視察があり、各方面から調整を行った。

改修計画案が決まりかけた頃、ナホトカ号重油流出事件、対立候補の新市長誕生、河川法の改正と相次

ぎ、計画は頓挫した。小松城の鬼門線上の別の地に移転する案が浮上し、改めて立地の固有性について研究することになった。神社創建においては古文書も多く残されており、由緒もハッキリしていたが、主要建物が冬至線上に配置され、日の出の方位には妙法山があることが新たにわかった。無形文化財指定されている特殊神事「お火焚神事」は冬至の日の出を模しており、有形無形一体となって今日まで伝えられていたのである。

最終的に移転ではなく堤防を作ることに決定し、いくつかの実施案を用意して、インターネットを利用した住民参加型のアンケート調査を実施した。

堤防工事のための仮設排水路がつくられると、平成25年に観測史上最大の豪雨に見舞われ、川の水位は上昇し、境内地は冠水状態となった。その影響で杉やタブノキの葉が変色し、神門脇の観測井戸の水位が上昇した。事業官庁に要望書を提出したが、すぐには改善されない。根回し、枝打ちを繰り返して行くが、スタジイの根が水路先まで伸び、施工業者に水位を下げるよう要請した。排水路の水位が下がり滞水がなくなるとスタジイの花付きが過大になり、摘果剤を散布することになった。

冠水があったため計画が変更になったことは幸いであったが、経路管理による植生の変化は著しい。詳しくはブログ(<http://komatsu.bairin.sub.jp/>)で鎮守の森と河川改修として紹介しているので参照されたい。

(文責・渡邊節子)

### 次回予告【第74回関西定例研究会】

- ◆日 時：1月28日(土) 12:30~16:00 京阪藤森駅集合
- ◆場 所：大岩神社（京都市伏見区深草向ヶ原）
- ◆テーマ：大岩神社の社叢管理を考える
- ◆説明：渡辺 弘之（社叢学会副理事長・京都大学名誉教授）  
系谷 正俊（社叢学会副理事長・株式会社総合計画機構相談役）

### 次回予告【第72回関東定例研究会】

- ◆日 時：2月18日(土) 14:00~16:30
- ◆場 所：國學院大學渋谷キャンパス120周年記念2号館1階 2104教室
- ◆テーマ：諏訪信仰と小宮の御柱祭
- ◆講師：島田 潔（國學院大學非常勤講師）

## 社叢見守り隊 実施要領決まる 各地でお取り組み下さい！

危機に瀕する社叢をいち早く発見しようと、昨年度から関東地方の有志で始まった「社叢見守り隊」事業は今年度の事業計画に記載された。全国に活動を広げるために、大まかな実施要領を紹介する。  
趣旨：各地の神社と社叢の現状を調査し、社叢の持つ重要性を広く訴え、後世にも持続させる  
参加者：社叢学会員を中心に一般参加者も含め、3～5人程度のグループを結成する  
実施頻度：なるべく月1回を原則とする  
調査対象：学会員が参加者の希望を聞きながら決めるが、なるべく小規模な神社も対象とする。また、徒歩での移動を原則とする  
調査項目：神社名・住所・調査月日・調査参加者・

由来など・祭神など・空間位置・面積・植生・社叢の実状など・地図上の位置

この他、周囲の状況や実見した感想などを所見メモに残すことが望ましい。さらに、可能な限り植物の位置図を作成しておく、森の状況が一目でわかり、経年変化を知るためにも有効である。

これらの記録は社叢学会ホームページで公開、ゆくゆくは社叢データベースとしての活用を目指す。  
★ 各居住地で「見守り隊」を発足させた時は、事務局にご一報ください。また、近隣の活動グループの紹介を希望される場合も、事務局にご相談ください。なお、関東地区での参加希望等は、木村甫理事(wagawaga22000@yahoo.co.jp)へ。

## 事務局から

- 謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、会員の皆さま方のご健勝をお祈り申し上げます。  
昨年は一昨年にも増して、さらに多くの自然災害に苦しめられた一年でした。社叢という小さな自然を守ることが、地球環境を守ることにつながるのと志をもち、今後とも力を尽くしてまいります。今年も変わらず、学会活動にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
- 岡村穰理事(名古屋市立大学教授)の最終講義が1月27日(金)13時から名古屋市立大学北千種キャンパス図書館2階大講義室にて開催されます。テーマは「都市の自然景観の保全と芸術工学」で、一般公開です。特に申し込みの必要はありません。時間までに会場にお越しください。
- 社叢インストラクター資格認定試験を、太宰府天満宮で実施いたします。ぜひ、ご挑戦下さい。

- 年次総会は大神社です。例年通り研究発表者を募集しております。奮ってご応募下さい。  
ご希望の方には三輪山登拝もしていただけます。自然崇拝を今に伝える地での2日間です。ぜひ、ご参加ください。

## 編集後記

またまたあつとゆーまに怒涛の年度末が近づいてきたではないか。今年は何れくらいの“えーかげんにしなさい!!”度なんだろう。と書いたところで!!  
理事忘年会の日の朝、「忘年会っていつに決まったんですかあ」という参加予定の理事からのE-Mail到着。ワタシが、いかなる会合も、案内状を出さずに済ましたことがあったらどうか!! 日時はこれこれ、場所はこれこれと、忘年会にはあるまじき丁寧さで辞を低くして参加依頼をしたではないか!!  
嗚呼、今年も既に先が思いやられる。人生は、キビシイものだなあ。。。 (藤岡 郁)

## 研究発表者募集！

テーマ：社叢に関する理論的研究  
社叢の保存・拡充に関する実践的調査研究  
発表時間：20分(報告15分+討論5分)  
応募締切：2017年3月末日必着  
応募要領：住所・氏名を明記の上、発表内容を300～400字にまとめ、E-Mail、FAX、郵便で本部事務局に送付

- \* 応募者多数の場合は担当理事で協議し、4月中旬までに諾否をお知らせいたします。
- \* 発表者は、発表当日に配布する資料を4月末までに本部事務局にお送り下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号  
TEL075-212-2973 FAX075-212-2916  
URL <http://www.shasou.org> E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)  
facebook <https://www.facebook.com/shasou>  
社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内  
TEL080-1514-5032 E-Mail [shasougakkai@hotmail.com](mailto:shasougakkai@hotmail.com)